

空母“遼寧”の離着艦訓練にはどんな機種を使うのか

漢和防務評論 20131224(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

空母のパイロットを養成するためには、空母に離着艦できる練習機が必要です。中国は、それをどの機種にするか？漢和防務評論に関連記事がありましたので紹介します。

南シナ海で訓練中の”遼寧”に搭載された戦闘機のパイロットはどこで訓練したのか。おそらく中国はウクライナに訓練を依頼したと思います。ウクライナには空母パイロット専用の訓練基地があります。

中国も同じ訓練施設を本国に造りました。しかし艦上専用の練習機は未だ出来ていません。漢和は、艦載機 J-15 の複座型になるのではないかと推測しています。

KDR 香港特電：

空母“遼寧”の訓練に関して注意すべきもう一つの問題は、離着艦訓練にはどんな機種を使うか？である。早い時期に JL-9 型練習機を使うのではないかという説が流れた。確かに海軍航空部隊は JL-9 を保有しており、テレビでも 81371 号機の映像が流れたが、着艦フックは無かった。これは、この部隊が艦載練習機の部隊でないことを示している。今のところ明確になっていることは、JL-9 が空母”遼寧”艦上で離着陸訓練を行ったことがないことである。

KDR は、JL-9 が艦載練習機ではなく、単に陸上訓練基地（CNITKA）に配備されているだけであり、中国海軍は JL-9 を艦上機にする意図がないと確信している。なぜならこの第 2 世代機を空母に載せる理由がない。KDR は、過去に JL-9 が閩良飛行場での離陸飛行試験の際に、あやうく大事故を起こしそうになったことを報道した。このときは後席パイロットの迅速な対応により大惨事を免れた。

JL-9 は、現在改良中であり、DSI インレットに再設計される。JL-9 の作戦能力が低いことが艦上機に適さない理由である。このほか、機体の整備及び編制の問題も考慮する必要がある。改装された”遼寧”の固定翼機の容量は 24 機である。さらにヘリも搭載する必要があり、JL-9 を容れるスペースがない。空母は搭載機数に制限を受けることから、欧米の空母練習機は、實際上戦闘機と同一機種にしている。例えば、F-18E/F シリーズ、MIG-29K/UBK シリーズである。ロシアは又 SU-33UB を開発したが、部隊には装備されていない。そうする目的

は、複座機も作戦任務に使いたいからである。

JL-9 は、たとえどのように改良したとしても、艦載練習機として空母に搭載する意義は小さい。JL-9 は、貴州黎陽で生産された WS-13F(C) 型ターボジェットエンジンを搭載、アフターバーナー推力は 6300 KG である。JL-9 の空虚重量は 4.96 トン、最大離陸重量 7.8 トンである。機内搭載燃料は不明である。

官側の宣伝では、陸上飛行場を離陸する JL-9 は 2 トンの武器を搭載する。したがって空母艦上から離陸する場合は、武器搭載量がこの数字よりも低下するのは明らかだ。結論としては、たとえ JL-9 が艦上機となったとしても、同機は単純な練習機に過ぎず、実戦で能力を発揮することはできない。訓練の第一段階の陸上飛行場での離着陸訓練には使用できる。

同じような状況は、かつて SU-25UTG の開発時にも存在した。この艦上練習機は海上での実戦能力が全くなく、海軍は最初から嫌ったため、ロシアの空母に載せられることはなかった。したがって中国海軍は、J-15 の複座型練習機を開発せざるを得なくなる。多分前後席はタンデム式で、SU-33UB のような並列式座席は採用されないだろう。タンデム式の方が設計は容易だ。中国は、すでに J-16、J-11BS で経験済みである。

米海軍は、空母に戦闘機及び練習機を 2 種類以上搭載しないと主張している。その理由は、整備支援の問題があるからだ。遠洋を航海する米国空母は、航海中、艦載機のエンジンを交換したり簡単な整備を実施する能力がある。中国がもし JL-9 を載せるのであれば、もう一本の整備ラインを設置する必要に迫られる。したがって KDR は、JL-9 は最終的に”遼寧”には載らないと判断する。

以上